

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	岐阜県指定 第2170200485号		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	〒501-3217 岐阜県関市下有知5367-4 (電話) 0575-21-7011		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	4月26日	評価確定日	平成19年 6月 6日

【情報提供票より 情報提供票より (平成19年4月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算7.09人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き平屋 造り		
	1階建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (4月 26日 現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2	要介護2	
要介護3	6	要介護4	
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 90 歳	最低 82 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	早川医院 中濃厚生病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた山の中腹にある特別養護老人ホームに併設されたグループホームである。中庭の芝生にはテーブルとイスが置かれ、家庭菜園も広い。建物内部はバリアフリー仕様で、個室には明るく開放感のある掃き出し窓がある。母体法人の様々な介護事業と連携をとりながら、利用者のその時々の介護度に合わせケアの質の向上に取り組んでいる。それぞれの分野の専門職とのネットワークで個々の職員の精神的肉体的な負担軽減に取り組むことが、利用者の安心とケアの質の向上につながるものの方針のもと利用者の自立した生活が支援されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であった個別の介護記録、サッシの二重ロック、表札などについて利用者の立場に立って見直しがされた。出来ることから1つ1つ改善が、確実になされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は、施設長と管理者・職員が話し合うことにより現状を正確に把握し、より良いケアの実践につなげる努力をされている。家族会でもサービス評価の内容開示を行う予定である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議においては、地域住民との交流を今回の課題とし「手づくりおやつを共に作る交流会」がすでに行われた。また今後の課題として、運営推進会議と家族会の交流という目標も設定し取り組みを計画している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の苦情や不安に対しては、その都度職員が対応するだけでなく、専門の窓口がありマニュアルに沿って解決している。家族会は、年3回会合がもたれその場でも不安の解消や意見の聞き取りをしている。外部の相談員の訪問もある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の小学校などの行事や地元のふれあいサロンへの参加などを行っている。今後は、近隣住民と畑の作物のお裾分けなど日常的な交流を深め、地元自治会や老人会との連携を進める予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員が、共に暮らすための「笑い」と「声かけ」を大切に、利用者から「知恵」を学びたいという独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は、玄関、事務室などの見やすい位置に掲示されている。日々の介護は、理念に添うよう心がけている。	○	非常勤職員も含め全員で理念について話し合い、考えを掘り下げて具体的なケアに反映させて欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあいサロンや小学校の運動会に参加するなど、利用者と地域の人々との交流がある。また、福祉関係者の見学や福祉系学生の実習の受け入れなども行っている。		介護相談会開催などを通じて、自治会や老人会など一番身近な地域の人々との相互交流を更にすすめられたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を管理者は理解しており、職員と共に評価の結果を具体的に活用して出来ることから改善を確実にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をもとに地元の方と手作りおやつの交流会を開くなど、独自の工夫をしながら取り組んでいる。		運営推進会議においても、サービス評価の内容を検討しホームの質の向上に活用してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との交流は、運営推進会議にとどまっている。	○	利用者の安心安全のために、事業所と市の担当者のホームに関する情報の共有と共通の理解を深め、問題解決に向けて協働できる体制づくりをされたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康上の問題に関しては、その都度連絡を行っている。金銭管理は、月1回の報告をしている。日々の暮らしぶりについては、面会時に伝えるようにしている。		家族への毎月の報告に、利用者の近況のほか、日用品代についての明細や職員の近況・移動についても記入があるとよい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年三回開催して意見交換を行っている。苦情に関しては、受け入れ窓口・担当者が明確でマニュアルに基づき迅速な対応がなされている。相談員の訪問も実施されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との馴染みの関係の大切さを理解しており、職員の移動は穏やかにおこなう様に心がけている。欠員対応は以前務めていた馴染みの方をお願いするなどしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を年間計画に取り入れ、就業年数に応じてその段階にふさわしい研修に参加出来る仕組みがある。また、法人内の会議で外部研修の内容について発表や勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入し、地域のネットワークづくりにも取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談の上で、体験入居やデイサービスの訪問、土日の帰宅など様々なメニューを用意し、徐々に馴染みの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念でもある利用者の知恵を生活に活かすことの大切さを、職員は理解している。昔懐かしいおやつの作り方や畑作りの知恵を学びながら共に暮らしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いは、聞き出し困難な場合が多いため、入所に至るまで、家族と連携しながら介護計画を作成するようにしている。利用者との日々の関わりの中で、その人の思いや意思を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議の開催前に、担当者は家族と話し合い、一人ひとりに合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、期間にこだわらずその都度必要に応じて早めに行っている。訂正後は、家族と利用者に必ず説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームに、夜間も看護師がいるので体調の変化にもすぐ対応が可能である。また、車椅子などの福祉用具に関しても法人事業所の協力が得られ適切なアドバイスが受けらる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の診察を希望される方には、支援をしている。それ以外の方にも、往診してもらえる医師にお願いして適切な医療支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対しては、併設施設の看護師や医師及びホームの管理者、職員がチームとなり家族と利用者の思いを聞き取り、話し合いを重ねている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等に関しては、法人の定めた個人情報保護のルールに基づき管理している。利用者一人ひとりの性格や習慣を把握した上で日常の声かけを行っている。	○	トイレ誘導のタイミングや声の大きさなどについて、職員全員で検討してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を定めず、天候や季節に合わせて利用者の意見に添うように過ごし方を決めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、自発的に準備片付けなど自分の出来ることを手伝っている。また食事時間は、職員も同じテーブルでゆっくりと会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日のルールはあるが、利用者の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。また、入浴剤を利用し香りや雰囲気にも考慮し、入浴の意欲を高める努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの楽しみごとを把握して、卓球や畑作業、家事、犬の散歩などその人らしい日々を過ごせるような支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもらない暮らしのための年間計画では、行事による外出支援を定期的に行っている。買い物は、体調や順番を考慮して支援している。	○	一人ひとりの希望に添ったお墓参りや実家訪問などの支援をさらに進めて欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中鍵はかけない。個室の掃き出し窓に関しては、天候や職員の人数などにより、利用者の安全に配慮して開閉をしている。		玄関以外の鍵もかけない時間を増やすことが、望ましい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には、運営推進会議の協力が得られるように話し合っている。食料等の備蓄もある。避難訓練は年3回、昼・夜間時の設定で行われ、利用者全員が参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士のアドバイスや医師の指導を受けながら、利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、コタツのある畳スペースもあり、開放感のある窓からは、庭の新緑が眺められ季節を感じることができる。浴室は入浴前に暖房を入れたりして、温度差に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日常品を持ち込めるような大きな収納スペースがあるが、馴染みの品が室内の見えるところに少ない部屋もある。	○	生活歴などを考慮して、利用者全員のその人らしい暮らしを支える居室作りに、積極的に取り組まれたい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。